



生坂村ゼロカーボンシティ宣言

～2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロに！～

長野県生坂村は、犀川の清き流れと溪谷美の山清路、雄大な大城・京ヶ倉など、水辺と里山が織りなす山紫水明の自然に恵まれ、先人達の努力により守り育んできた自然、伝統との共生の精神を受け継ぎ、地域の絆を大切に心豊かな暮らしを営んでいます。

当村は、令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨の記録的な大雨により、村内各所で土砂崩落が発生し、今年5月25日には大きな雹が降り、特産のぶどうが壊滅状態になる畑が出るなど甚大な被害に見舞われました。

このような状況は、もはや単なる「気候変動」ではなく、人類や生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」と言われています。

気候変動の原因となっています二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスは、国民一人ひとりの衣食住や移動といったライフスタイルに起因するものが、全体の排出量の約6割を占めるとも言われ、カーボンニュートラルに向けては、誰もが無関係ではられません。

未来を担う子ども達が安心して暮らせる持続可能な社会を造るためにも、カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指す必要を痛切に感じます。

長野県生坂村では村民との協働による村づくりの継続により、第6次総合計画の将来の姿「確かな暮らしを明日につなぎ 明るく 健やかに生きる村」に向け、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すことをここに宣言します。

令和4年6月16日

生坂村長

藤澤泰彦